

札幌 ITカロッツェリア クラスタ 人間中心のものづくり IT製造基地の創出

概要

札幌発のプロダクトを「目に見えない、手に取れないソフトウェア」から「目に見える、手に取れるプロトタイプ(試作品)」に進化させることで新生札幌IT産業を創出します。そのためには、札幌発のIT機器プロトモデルが、付加価値の高い世界で通用する製品として受け入れられる必要があります。この事業では、新たなIT要素技術、工業デザイン手法を確立し、「人間中心のものづくりIT製造基地」の創出を目指します。

クラスター本部体制

- 本部長…………… 下川 哲央(小樽商科大学ビジネス創造センター長、教授)
- 事業総括…………… 鬼頭 弘一
- 研究統括…………… 青木 由直(北海道大学大学院工学研究科 教授)
- 副研究統括…………… 山本 強(北海道大学大学院工学研究科 教授)
- 科学技術コーディネータ 小澤 彌/大井 康

中核機関

財団法人 北海道科学技術総合振興センター

参加研究機関

(太字は核となる研究機関)

産…(株)ビー・ユー・ジー、(株)シーワーク、(株)マイクロネット、(株)ソフトフロント、
(株)日立製作所機械研究所、(株)富士通九州システムエンジニアリング 他
学…**北海道大学**、東京大学、公立ほこだて未来大学、北海道東海大学、
北海道工業大学、昭和大学、札幌医科大学、北海学園大学、小樽商科大学
札幌市立高等専門学校、道都大学、旭川工業高等専門学校 他
官…北海道立工業試験場、独立行政法人メディア教育開発センター

事業総括 鬼頭 弘一



北海道建設部次長、岩見沢市助役、北海道建設部まちづくり推進室長、北海道寒地住宅都市研究所長、(株)テクノラボ顧問を経て現在に至る。

新たなクラスター形成による新産業の創出を目指して

「カロッツェリアとは何」とよく聞かれます。イタリアには、ピニンファリーナ、イタルデザインなどカロッツェリア(車体)と呼ばれるボディデザイン工房が数多く存在し、車体設計デザインが独立した産業となっています。札幌ITカロッツェリア構想は、このイタリアのデザイン工房にヒントを得て、サッポロバレーというIT産業集積地としてのアドバンテージを活かし、組込・ソフトウェア技術とユーザビリティ・デザインを融合させたシステムをプラットフォームとした「ものづくりIT工房」を実現するものです。中小企業の地域内分業によって大量生産ではない高品質な製品を短期間で製造し、世界市場を相手とした札幌ブランド形成を目指します。

平成15年度は、研究成果としてプロセス技術開発、試作品および特許・意匠等の知的財産が順次創出され、この技術力可視化や研究成果のPRのために、例えばパシフィック横浜における「組込総合技術展2003」における発表や展示など、併せて9回の成果発表・出展を積極的に行ってまいりました。

今後は、札幌ITカロッツェリア構想の「組込IT工房」「デザイン工房」を実現するため地元自治体(北海道、札幌市)の施策と連携をはかりながら、ユーザビリティ・デザイン総合センター構想の具体化に向けた取り組みを進めてまいります。

産学官連携による共同研究のあらまし

「札幌にIT機器プロトモデルを頼めばいいものを早く作ってくれる」「新製品の開発なら札幌に」といった魅力的なプロトタイプ製造基地を目指し、北海道大学を中心にサッポロバレーに代表される優秀な企業群、地域外の当該技術ノウハウを保有する大企業の参加による新たなクラスター形成の下で「ITラピッドプロトタイピングシステム」の開発を進めています。また、札幌に集積している技術力を最大限に発揮し、ユビキタス、センシング（検知技術）、ウェアラブル（携帯）、バリアフリーなど次世代ライフスタイルをキーワードに具体的試作物を開発。デザイン性、ユーザビリティ性（使いやすさ）に優れたプロトモデルを先行的に創出し、新事業の展開を目指します。

- 電子回路設計、シミュレータ、基盤設計、ソフトウェアなどIT機器開発における異なる開発環境を統一された操作モデルで扱える統合型組込みシステム開発環境の開発
- 美しい筐体形状と優れた操作性を持つ製品の意匠デザインを迅速かつ高品質に実施できる次世代モデリングソフトウェアおよび形状技術の開発
- 機能的で魅力的な情報機器を設計する上で必要とされるユーザビリティ設計手法の開発
- 次世代ライフスタイルをキーワードに市場ニーズを意識した新技術による具体的IT機器の開発

本事業が目指す「ITカロッツェリア」のイメージ

